

プロフェッショナルの労働市場

J・マーク・ラムザイヤー

プロフェッショナルが社会的に目立つ理由は、彼らの人数が多いからではなく、経済的、政治的階層における彼らの地位が高いからである。彼らは少数であるが、しかし、ほとんどすべての社会において、その数に不釣り合いな高所得と多大な政治的権力の双方を手に入れている。

こうしたプロフェッショナルの人数、所得、権力といった特徴の間には互いに関連性がある。

第一に、プロフェッショナルが高収入を得られるのは、人数が少ないために独占利潤 (monopoly または scarcity rents) を得ることができるからである。例えば中里実教授、エリック・ラスムセン教授と私が行った調査では、日本の東京以外の弁護士は、彼らの数が地域に少なければ少ないほど高い収入を得ているのである。また医師は米国でも日本でも高収入を得ており、どちらの国でも医師になりたいと希望する学生の数、首尾よく医師になれる人数をはるかに上回っている。

第二に、プロフェッショナルの人数が少ないのは人数が規制されているためである。日本では司法試験に合格する学生が (最近の改革後でさえ) ごく少数であるため、弁護士の数が少ない。また日米両国とも医師志望者は医学部に通り国家試験に受かることが要求されるため、医師の数は少なく、高収入を得ているのである。

第三に、プロフェッショナルに対するこうした人数規制は彼らの政治的権力の反映と言える。弁護士や医師たちは自らの地位を保持するための規制プロセスの操作に懸命となり、ほとんどの場合、新たな参入を阻む方策を、その政治的議題に盛り込んでいる。米国の法曹有資格者たちは総数の制限にはそれほど成功していないが、米国法廷弁護士協会 (American Trial Lawyers Association) の

ような法曹界内部の団体は自分たちの経済的地位を脅かすような改革については、繰り返し阻止し続けている。

最後に、規制プロセスを操作するこのような権力は「プロフェッション」という用語の定義そのものに本来備わっているということである。プロフェッショナルの規制は公共の福祉に必要なものではない (むしろこうした規制は公共の福祉を害しているといえる)。それどころか、プロフェッショナルは、その集団に属するメンバー自身が、自分たちに有利な規制構造を獲得する政治的権力を持っているがゆえに、こうした規制が行われているのである。これは取るに足らない言い方のように聞えるかもしれないが、ポイントはそこにある。すなわち、ある集団は、そのメンバーたちが独自の規制構造を形成する政治的権力を持って初めて「プロフェッショナル」と呼ばれるのである。

言い換えれば、多くのサービス産業のなかでもプロフェッショナルと呼ばれる集団は公共の福祉のために規制構造を要請するものではない。逆に、プロフェッショナルと呼ばれる集団は、まさにその構成メンバーが有利な規制を獲得する権力を持っており、こうした規制構造はメンバーたちの収入を引き上げる。プロフェッショナルは公共の福祉からの要求で規制されるのではなく、むしろメンバーたちが規制構造を獲得する力を持っているゆえに「プロフェッショナル」と呼ばれるのである。

要するに、規制の枠組みを左右する政治的権力こそが「プロフェッション」の意味する本質なのである。

(J・マーク・ラムザイヤー ハーバード大学ロースクール教授)